

# おとうしきのえほんを作ろうプロジェクト！

## おいてきぼりにならないお別れを

「お坊さんがどんな話をしてるか今まで知らなかったから…」

「家に帰ってからお葬式のこと要約して紙に書いてもらった。」

「手話通訳は呼ばなかった。いいかなって。」

「他の家族で全部進められていた。」

これは、親の葬式に行った耳の聴こえない人たちからの言葉です。

大好きな家族が亡くなった時、「耳の聴こえない家族だけ取り残される」、そんなことがあります。人が亡くなってからお葬式が終わるまでの間、一無音であったなら、と想像してください。

「聴こえる人もお経の意味なんかわかんないよ。」そうは言い切れない「分からなさ」があるのではないのでしょうか？

お葬式に手話通訳を呼べる公的制度はあります。でも、自分のためだけには…、と呼ばない人がいます。「必要性を感じないから。」と言う声を聞いたことがあります。そして、同時に「呼べばよかった。」と言う後悔の念も聞いたことがあります。

大切な人とのお別れは1回きりです。そこで後悔なんてしてほしくありません。

小さな時に、少しでもお葬式に触れていられれば、「必要性」を判断する材料が増えるのではないかと考えています。

しかし、小さい子は手話通訳をなかなか理解できません。さらに、親族の死であれば親御さんは時間的にも心情的にも教材を作る余裕がないでしょう。

そこで、聴こえない子の理解の助けとなる「おとうしきのえほん」を作ることになりました。以前、幼稚園児の子のおじいちゃんのお葬式の手話通訳に行った時のお母さんの言葉です。

「せめて、おじいちゃんが死んだって分かってほしい。」

まずはそこから、この地点に聴こえない子が立てるところから絵本はスタートします。

お葬式のマナーや死の意味を考える絵本ではありません。  
そこにいるみんなと同じ場を共有できることを手助けするための絵本です。

ぜひ皆さんのお力をお借りして絵本作りを進めていきたいと考えています。  
ご協力いただける方は次のページをご覧ください。よろしくお願いいたします。

# おそろしきのえほんを作ろうプロジェクト!

## おいてきぼりにならないお別れを

現在、**仏教情報センター**さんに監修を頂くことは決定していますが、他のことは未定です。ご協力いただけると嬉しいです!

寄付してくれそうな先知ってるよ!

とりえず投稿シェアするよ!

助成金調べるの得意だよ!

デザイン見ようか?

アンケート集計手伝おうか?

出版社との繋がりあるよ!

<今後の予定>

12月～1月 アンケート調査(Googleフォーム) \*集計メンバー募集

2月まで 助成金申請 \*助成金申請に明るい方募集

3月 内容、出版社決定 \*出版社さんや編集者さんとパイプがある方募集  
\*企画書作り得意な方募集

～未定

5月 入稿 10月には出版(タイトスケジュールです…)

取り急ぎの予定です。何が必要なのか、予算をどうするかなどは現在検討中です。そのあたりについてのアドバイスもありましたらお願いします。



### 発起人:阿(ほとり)

「南無阿弥陀仏」から名前をいただいた寺娘。16年間寺を離れていたが、3年前に住職の父を亡くし、葬式や寺の存在について考え始める。大学時代から聴覚障害児教育に携わり、現在は聴こえない子どもとその家族の支援活動(ほとりんく)や手話通訳を行なっている。難聴児パパ住職×手話通訳士寺娘で東京都仙蔵寺で法要に手話通訳をつける試みにも取り組む。

ほとりんくの活動で知り合った親御さんから、葬儀の通訳を依頼される。その時にひたすら絵を描いて伝えたところ、子どもが多くのことから理解できたことから、葬儀の絵本があれば聴こえない子たちの助けになるのではないかと思いつ。



実際に描いた絵

一般社団法人  
仏教情報センター      ほとりんく

